



ミネベア株式会社決算説明会

2001年3月期決算

2001(平成13)年5月18日

代表取締役社長 山本次男

2001年3月期決算の概要

2001年3月期 損益の概要

	2月22日時点の 見込	実績 <small>(単位:百万円)</small>
売上高	287,000	287,045
営業利益	34,000	32,977
経常利益	25,000	24,726
当期利益	15,000	14,826

3カ年計画初年度の目標を達成

前期の実績は、期後半、PC市場の低迷が顕著になった他、為替変動による売上高と利益へのマイナスの影響がありましたが、売上高2,870億4,500万円、営業利益329億7,700万円、経常利益247億2,600万円、当期利益148億2,600万円と、本年2月22日に発表致しました見込み数字をほぼ達成する事が出来ました。

また、前期の実績数字は、昨年発表致しました3カ年計画の初年度の数字もほぼ達成しております。

「高成長会社」「高収益会社」になるための 三つの基本方針

3本の柱:

1. 最も収益力の高いベアリング関連製品の増産を図る。
2. 精密小型モーターを中心とする回転機器事業をベアリング関連製品事業と並ぶ柱に育て上げる。
3. 主要な製品に関し、高付加価値製品の比率を引き上げる。



ミネベアの最大の特徴であり、その強さの源泉
「超精密機械加工技術」「大量生産技術」

3

MINEBEA NMB

3カ年計画は、ミネベアを『高成長会社』、『高収益会社』にする事を目的にしており、その実現の為、

- 第一に 『最も収益力の高いベアリング関連製品の増産を図る事』
- 第二に 『精密小型モーターを中心とする回転機器事業をベアリング関連事業に並ぶ柱に育て上げる事』
- 第三に 『主要な製品に関して、高付加価値製品の比率を引き上げる事』

前期に於いて、急激な事業環境の変化や、為替相場の変動があつたにもかかわらず、ほぼ計画通りの数字が達成できたのは、ミネベアの最大特徴であるこれら技術の、更なる高度化を通して、経営の"3本の柱"が、着実に実現されて来ている事の証であると言う事が出来ます。

2001年3月期リストラクチャリングの概要

- 車輪事業からの撤退と京都工場の閉鎖
- 子会社の再編
- 啓愛社エヌ・エム・ビーとの販売特約店契約の解消
- 株式会社アクタスの売却

前期には、「3本の柱」の推進基盤を強化する事を目的に、数多くのリストラを行いました。

第一は、車輪事業からの撤退と当社京都工場の閉鎖です。

同工場では建設車輛や、スノータイヤに使用するスチールホイールを生産しておりましたが、将来にわたってスチールホイール市場の規模拡大が見込まれないことから、同事業からの撤退を決定しました。このため、車輪事業整理損27億6,200万円を計上致しました。

第二は、子会社の再編です。

スピーカービジネス再編の一環として、スピーカーボックスの生産を台湾からマレーシアへ移管すると共に、トランスを生産していた一ノ関工場の閉鎖と甲府工場への移管を行いました。更に、海外子会社3社及び国内子会社1社の清算を決定致しました。これらに係わる事業整理損として、19億4,300万円を計上致しました。

第三は、株式会社啓愛社エヌ・エム・ビーとの販売特約店契約の解消です。

これまで日本国内での販売は、全て啓愛社エヌ・エム・ビーを通して行って参りましたが、製造と販売の管理を一体化させる事により、国内営業のより一層の効率向上を計るべく、この変更を行いました。この契約解消に伴い、解約金として12億円を支払いました。

第四は、株式会社アクタスの売却です。

アクタスは、当社の本業とは全く無関係な輸入家具の販売会社でありましたが、経営資源の本業への集中を目的として、最終的に52億円の利益が出る形での売却により、同事業から撤退致しました。

2002年3月期業績見込み

2002年3月期の見込み(1)

売上高	3,000億円
営業利益	330億円
経常利益	250億円
当期利益	150億円

今期は、売上高3,000億円、営業利益330億円、経常利益250円、当期利益150億円と、前期実績に比べ若干の増収、増益としました。

2002年3月期の見込み(2)

	3カ年計画			2002年3月期 見込み
	2001年3月期	2002年3月期	2003年3月期	
売上高	2,900億円	3,320億円	3,370億円	3,000億円
営業利益	330億円	390億円	470億円	330億円
経常利益	240億円	320億円	420億円	250億円
当期利益	150億円	200億円	270億円	150億円

昨年発表致しました3カ年計画は、上記の通りです。

当期2002年3月期の見込み数字は、3カ年計画を下回り、初年度の数字と、ほぼ同じになっております。

その主たる理由は次の通りです。

2002年3月期の見込み(3)

- ◆ 国内経済及びIT関連業界の先行きが不透明な為、現時点ではPC関連製品を中心に、売上高と利益率を保守的な数字とした。
- ◆ 電源事業の損益分岐点への到達が来期移行にずれ込む見通しとなった。
- ◆ スピーカー事業およびネジ事業の売上高と営業利益が計画を大きく下回る見込である。
- ◆ (株)アクタス売却により同社の売上高133億円と営業利益8億円が減少する。

- ・ 国内外経済及びIT関連業界の先行きが不透明な為、現時点ではPC関連製品を中心に、売上高と利益率を保守的な数字とした事
- ・ 今期ブレークイーブンを予定していた電源事業の、損益分岐点への到達が、来期以降にずれ込む見通しとなった事
- ・ スピーカーとネジの売上高と営業利益が、計画を大きく下回る見込である事
- ・ アクタス売却によりアクタスの売上高133億円と営業利益8億円が減少する事

3カ年計画は、初年度の計画を2度繰り返す形になりますが、経営の"3本の柱"を更に強力に推し進め、今期計画の実現と来期以降の更なる発展につなげて行きたいと考えております。

2002年3月期リストラクチャリング概要

2002年3月期リストラチャリング概要

- 電源事業
 - 米国開発・生産部門及び欧州開発部門の縮小ならびに統廃合
- ネジ事業
 - 人事・組織の抜本的な改革
 - 生産品目の全面的な見直し
- スピーカー事業
 - 台湾からマレーシアへの全組立工程の移管
 - 高付加価値に特化

今期も、本業の製造業における集中と選択を積極的に行います。

第一は、電源事業に於ける米国の開発及び生産部門と、欧州の開発部門の縮小、並びに統廃合です。

米国では、コネチカット州の子会社PSI社が、複写機や医療機器用の高圧電源の開発を行い、その生産をメキシコのノガレス市にある子会社MEM社にて行っておりましたが、主要顧客の業績不振により、生産の先送りと受注の極端な低下に見まわれました。

この為、PSI社の開発部門をカリフォルニア州チャッツワース市の子会社NMBテクノロジーズ社の電源開発部門に統合すると共に、MEM社を閉鎖する事と致しました。この結果、約5億8,000万円の事業整理損が発生する見込みですが、この金額は前期に引当金を計上済です。

また、欧州では、英国スコットランドの子会社MINEBEA (UK)社とドイツのアウグスブルグ市にある、NMB MINEBEA GmbHの電源開発部門において、電源の開発を行っておりますが、開発品目を採算性の高い品目に絞り、より効率の高い開発体制を作る事を目的として、特に英国の開発部門を縮小する事に致しました。

ドイツの開発部門は、電話交換機用など特殊用途の電源を主体に開発しておりますが、こちらは現状維持、ないしは拡大を考えております。欧州の電源事業のリストラに伴う費用は、極小額と見込んでいます。

電源事業部門は、以上のリストラを進める事によって、来年度にはブレイクイーブンを目指します。

第二は、ネジ事業に関しての見直しです。

市場の変化への対応の遅れにより、ネジ事業は昨年赤字となりましたが、昨年度中に人事・組織の抜本的な改革を行い、合わせて生産品目の全面的な見直しを行っております。本年度は赤字の見通しであります。来年度には黒字転換を見込んでいます。

第三は、スピーカー事業に関しての見直しです。

スピーカー部門では、昨年、スピーカーボックスの組立工程の一部を、台湾から、オーディオ機器メーカーが集中しているマレーシアに移管しましたが、今期中に台湾での組立工程の全てをマレーシアに移管すると同時に、徹底的な生産品目の見直しを行い、高付加価値製品に特化する事で黒字化を目指します。

主要製品の状況

主要製品の状況



ミネベアの 超精密機械加工技術 大量生産技術



12

MINEBEA NMB

当社が手掛ける殆ど全ての製品は、その内製部品や生産工程に於いて"超精密機械加工技術"が活かされている事が、ミネベアの最大の特徴であり、競争力の源泉です。

以下、当社の特徴が最大限に活かされている、経営の"3本の柱"の内の第一の柱であるベアリング関連製品と第二の柱である回転機器の現状と今後の見込みをご説明します。

スピンドルモーター

2002年3月期の主力モデル

2.5インチ20GB/Platter HDD用
3.5インチサーバー、ハイエンドデスクトップHDD用
流体軸受(シーゲートモデル)
1.8インチHDD用等新モデル

2001年12月
500万台生産



HDD市場成長率見込み:

2001年度	2002年度	2003年度
218百万台(16%増)	260百万台(19%増)	319百万台(23%増)

HDD暦年ベースの総出荷数のデータ出所:ピクシービジュアルコーポレーション

13

MINEBEA NMB

回転機器、中でもハードディスクドライブ用スピンドルモーターは、電機製品と言うよりは、超精密機械加工製品であり、ミネベアの強さが直接的に生きる製品です。

今期の当社のスピンドルモーター事業は、2.5インチでは20ギガ/PlatterHDD用、3.5インチではサーバー用及びハイエンドデスクトップ用、そして流体軸受モーターではシーゲートモデルを中心とし、これに今期後半から順次市場投入される見通しの1.8インチモデル等の新モデルが加わる事になります。

詳細は、本年3月23日に開催しました製品説明会の説明要旨をご参照ください

HDDの暦年ベースの総出荷数は、

- 2000年が、約1億8,800万台
- 2001年は、その16%アップの2億1,800万台
- 2002年は、19%アップの2億6,000万台
- 2003年は、更に23%アップの3億1,900万台

とされています。

最近、出荷増量要求が複数の客先から出てくるなど、市場に動きが出て来ている事も踏まえて考えますと、市場の2億1,800万台の到達は可能と思われます。ミネベアのスピンドルモーターに関しましても、2001年末の月産500万台の達成は可能と考えております。

この500万台には、流体軸受搭載モーターが100~150万台含まれており、その成否が500万台達成の鍵となりますが、流体軸受及び同モータープロジェクトは、概ね順調に進展しています。

HDDの暦年ベースの総出荷数で、特に2003年に大幅な成長が見込まれておりますのは、この時期に、AV用3.5インチHDD用の他、ハンドヘルドPC用・B5サイズPC用、或いは車載用等の2.5インチ、或いは1.8インチHDDが急拡大する事が見込まれている為です。

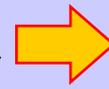
自動車用回転機器



1. 自動車業界の動向

- 省エネルギー
- 安全性
- 快適性

の追求



センサー
高性能モーター
の需要拡大



2. ミネベアの自動車用回転機器



- (1) 欧州自動車会社とのビジネスは順調
- (2) 国内大手自動車会社とのビジネス開始
- (3) 多数の新規開発プロジェクトが進行中

自動車業界は、既に成熟期に入っており、今後、現在の年間約5,000万台を越えての急成長は望めませんが、省エネルギー、安全性、快適性等の要求レベルが高くなって来ており、これに対応する高度な制御を達成する為のセンサーや、高性能モーターの需要が急速に拡大しつつあります。

これは、ドイツ子会社のPMDDM社に代表されるミネベアのモーター開発力、長年航空機搭載機器や防衛用機器の分野で培ってきたレゾルバーなどの開発・設計技術、そしてミネベアの強さの源泉である"超精密機械加工技術"と"大量生産技術"が生きる分野です。

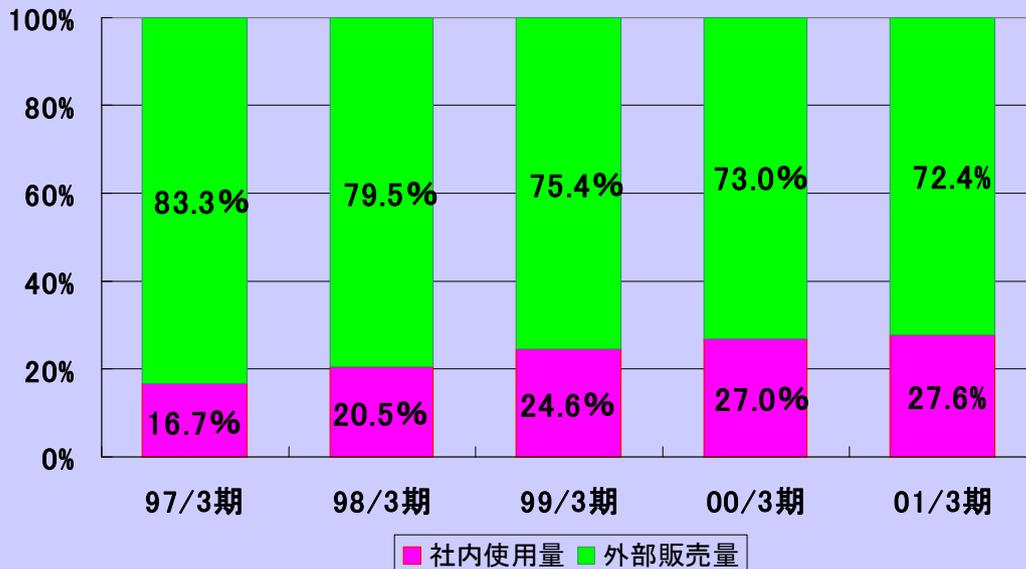
既に欧州自動車会社向けにEPS即ち電動パワーステアリング用モーター、ダッシュボードユニット用モーター、光軸調整用モーターを納入しておりますが、国内自動車メーカーからも強い引き合いを頂いています。

また、RDコンバーター付きレゾルバーも、昨年11月からサンプル製品の出荷を行っておりますが、日本並びに欧米の大手自動車メーカー各社から強い引合いを頂いており、今期後半から来期前半には納入が開始される見込みです。

他にも、ABSモーター、電動ブレーキ用モーターなど多数の開発が進行中であり、順次市場に紹介して参ります。

ベアリング(1)

ボールベアリング内部使用比率の推移(年間ベース)



予定通り昨年12月末までに通常稼働日数での、月産1億5,000万個生産体制が整い、本年3月には月産1億5,000万個の生産を実現致しました。

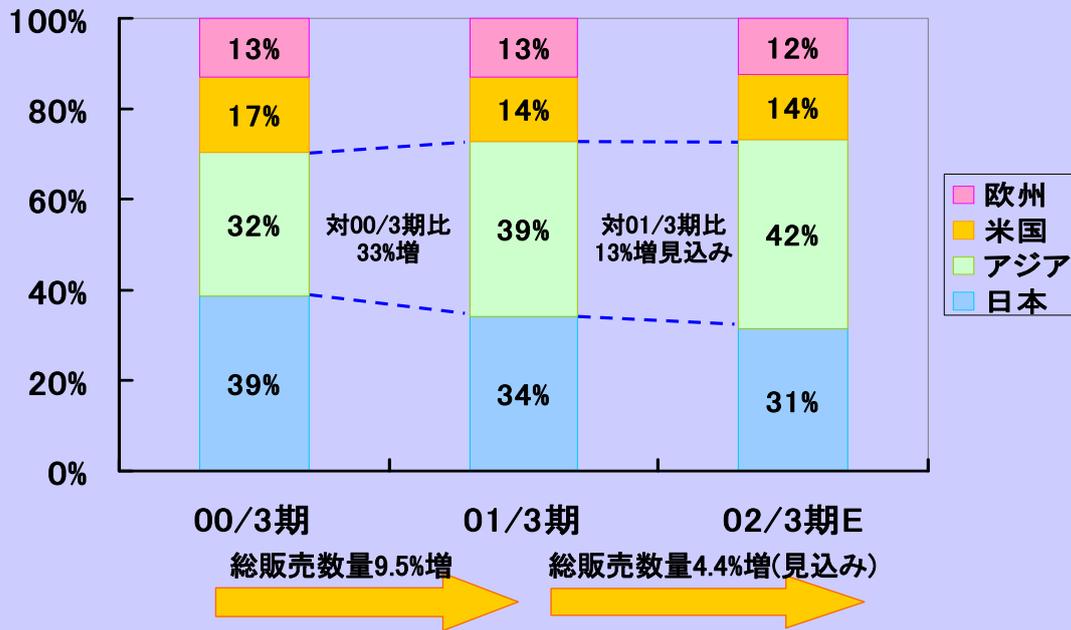
前期のボールベアリングの、社内使用と外部販売の年間数量ベースでの比率は、社内使用が27.6%、外部販売が72.4%でした。

社内では、ピボットアッセンブリー、ファンモーター、スピンドルモーター、ステッピングモーター等に使用されていますが、前期は、ピボットアッセンブリー、ファンモーターの増産に伴い、ベアリングの社内使用数は大きな伸びを示しました。

今期においてもスピンドルモーターをはじめとする回転機器の増産が見込まれておりますので、このボールベアリングの社内使用数量もこれに応じて増加致します。

ベアリング(2)

ボールベアリング地域別販売割合



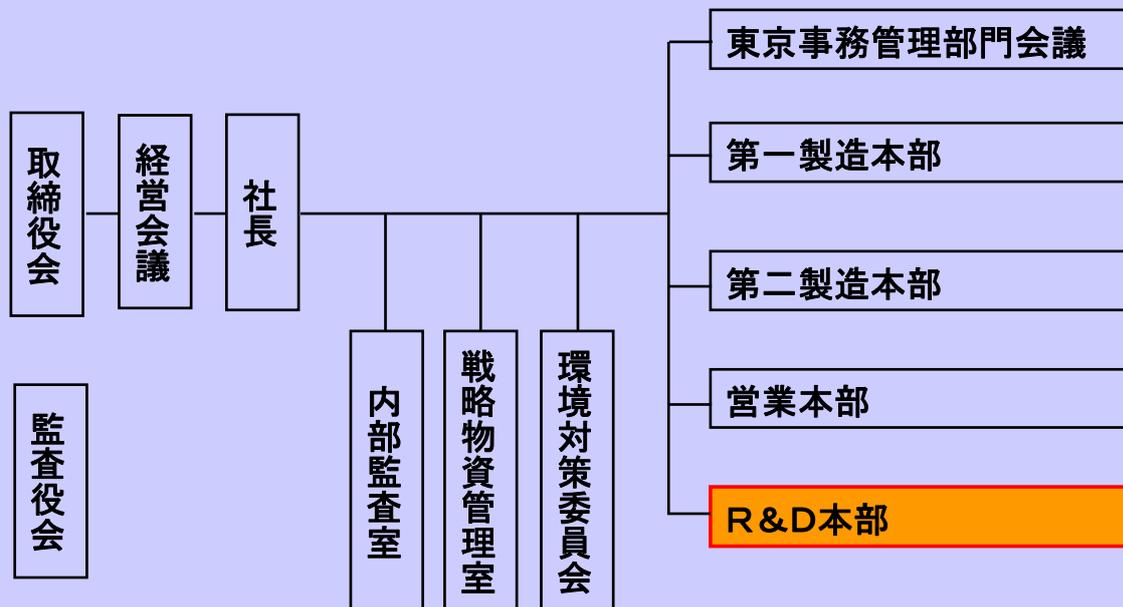
16

MINEBEA NMB

前期の外部販売数量は、前々期2000年3月期に比べ9.5%の伸びを示しました。
 これには、前期に、対前々期比33%の伸びを示した、アジア地域での販売増加が大きく貢献しています。
 なお、販売単価は、下落しておりません。

ボールベアリングは、家電、自動車、金融端末、工作機械等幅広い分野に使用され、PC依存度はそれほど高い訳ではありません。しかし、PC業界も7月以降に本格的な回復を示し、年間最低5~8%程度は成長するものと見込まれておりますので、現在のエアコンやクリーナー等をはじめとする中国製家電、国内自動車業界等からの好調な需要に加えて、PC業界の回復に伴う受注増が加われば、今期の下期にはフルキャパシティでの生産が必要になると予想しています。

R&D本部の設置について

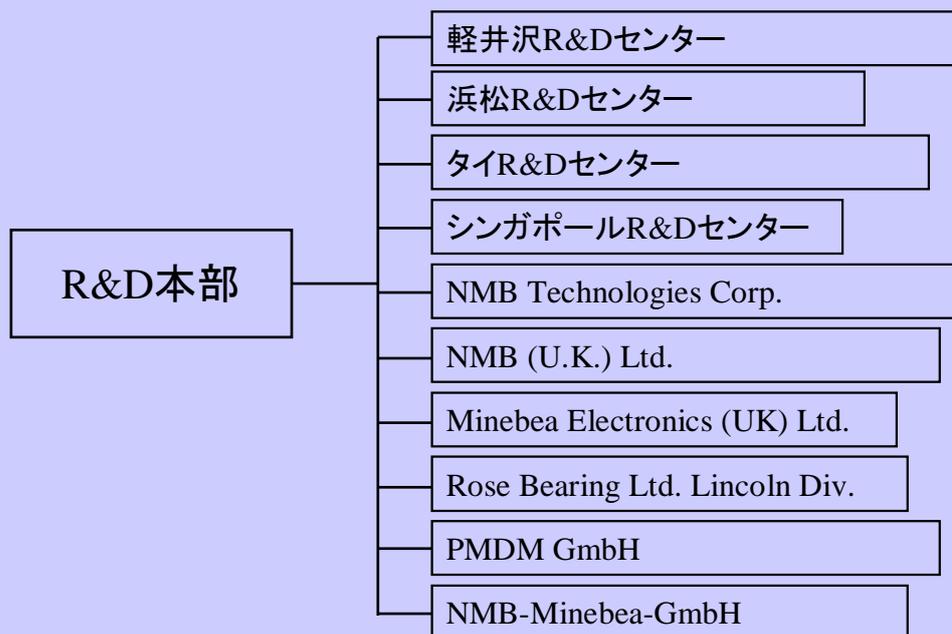


17

MINEBEA NMB

当社のR&D活動、或いは製品開発活動は、事業部や子会社等が、各々自らの年度予算の中で行って来ておりましたが、今期より、ミネベアグループ総体の利益に適うR&Dプロジェクトを、時期を逸することなく進める事を目的に、R&D本部を発足させ、該当するプロジェクトの経費を事業部や子会社から切り離し、R&D本部が負担するように改めました。

R&D本部の設置について

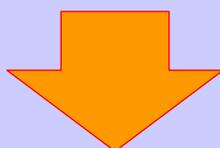


これにより、事業部や子会社の短期の損益状況にとらわれずにR&D活動が展開され、ミネベアの高成長・高収益をになう新製品が産み出される事を期待しております。



まとめ

- リストラの継続と徹底
- 「超精密機械加工技術」「大量生産技術」の更なる高度化をベースとした経営の「3本の柱」の徹底的な追及



高成長会社・高収益会社の実現を目指す

リストラの継続と徹底、ミネベアの強さの源泉である"超精密機械加工技術"と"大量生産技術"の更なる高度化をベースとした、経営の"3本の柱"の徹底的な追及により"高成長会社"、"高収益会社"の実現を目指して行きます。

ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>